

久留米大学附設中

入試問題解答

国語

【総評】 **一** 聞き取り **二** 言語事項 **三** 物語文 **四** 隨筆文からの出題。R6. 7と作文の出題であったが今年度は聞き取りであった。大問一の聞き取りは1500字程度の朗読文からの出題で、筆者の意見や主張を正確に聞き取る問題が多く出題された。大問二の言語事項では語彙力を試す問題であった。大問三の物語文は「ミナミの春」遠田潤子からの出題。春美がワンピースに染みをつけてしまった出来事を通して吾郎と春美の心情の変化を読み取らせる文章。大問四は「つながりのことば学」斎藤治道からの出題。聾者で写真家である筆者自身の経験を通して学んだ「ことば」に関する思い・考えを述べた文章であった。全体的に幅広い語彙力と、細部を読み取る力、そして読み取ったことを的確な言葉で表現する力が求められる難度が高い問題であった。

- 一** 問一 (例) えらく 問二 では、 問三 (例) 生き方のパターン
問四 (例) 人間だけが自分の死というものを知ってしまい、ショックを受けたこと。
問五 (例) 動物たちのそれぞれの生きかたを知ることで、人間自身の生きかたを見つめなおす(べきだ。)
- 二** 問一 (1)解、望(順不同) (2)①空(夢) ②着／発 ③理 ④連 ⑤構
問二 ①ますます ②よくよく ③わざわざ ④いよいよ 問三 ①イ ②イ ③オ
- 三** 問一 (1)キ (2)イ (3)エ 問二 子供心に父～制している 問三 ウ 問四 ア
問五 (例) 謝っても許してもらえず、コートを脱いでワンピースの茶色のしみを直接見せればとうてい許されるはずはないと思い、こわくなかった(から。)
問六 (例) 娘に嘘をつかれ妻との約束も守れず、つらい(気持ち。)
問七 (例) 自分が幼いころ、父から言われた冷たい言葉を、妻の教えに反して娘に對して言ってしまった(ということ。)
問八 エ
- 四** 問一 a 大海 b 集約 c 染(まる) d 整合 問二 エ
問三 A (例) 自分の思いを伝える B (例) 他人の評価
問四 C (例) 自分の思いがこめられたことば D (例) 情報としての価値
問五 まだ形になりきれていない思いや感じ方
問六 (例) 自分の人生で築きあげた思いや感じ方を無視して、他者の言葉を無理して使う(とき。)
問七 ウ 問八 ア
問九 E (例) 自分の人生で積み重なったことばに支えられている
F (例) 自分の思いを押し殺して他者の評価を気にする

